

吉田先生との対談は、昭和45年の暮か、もしくは46年の正月、小学館で、「教育技術」三月号の連載対談のために行はれたものです。「教育実践の底流」と題して隔月に掲載された六回の対談の最終対談だったさうです。

先生にお会いしたのはこれが最初で最後でした。先生は大正5年1月生まれで私より三歳八ヵ月年長で、東大を昭和14年に卒業していらっしゃいます。有名な学者の御父君譲りの深い学識を内に秘められた、温い人柄の先生でした。

先生の御質問により、日頃余り考へてゐなかつた面を引き出され、その後の私の歩みに影響を与えてくれた先生です。たった一度の出会いの先生でしたが、忘れがたい先生です。この時、私は大東文化大学幼少教育研究所所長、先生はお茶の水女子大学教授でいらっしゃいました。